

# REPORT

## International 第22回ウニマ総会・ 世界人形劇フェスティバル

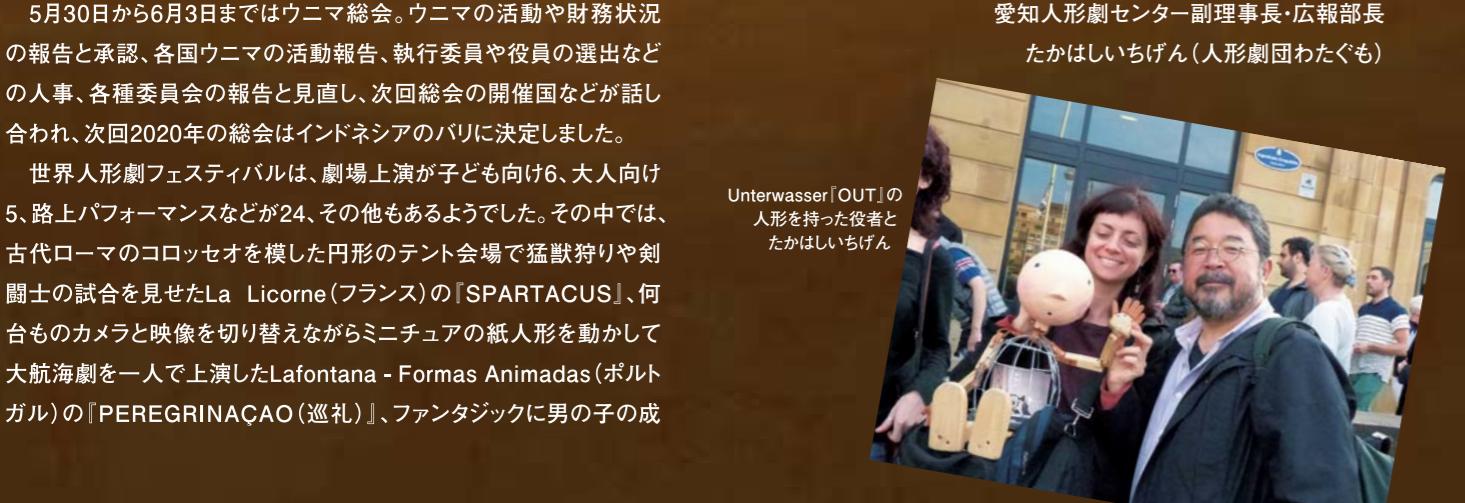


5月28日から6月5日までの9日間にわたってスペインのサン・セバスチャンとトローサで催された第22回ウニマ総会と世界人形劇フェスティバルに、日本ウニマの評議員として参加しました。ウニマ(UNIMA)とは、UNION INTERNATIONALE DE LA MARIONNETTE(国際人形劇連盟)の略称で、人種・国家・社会体制・民族・国籍・宗教・芸術傾向の違いにかかわらず、人形劇芸術にたずさわる全世界の人々が、人形劇芸術を通して平和と国民相互の理解に貢献するため自発的に集まった組織です。1929年に設立され、1988年には初めてアジアの地、名古屋・飯田・東京で第15回の総会が開催されました。

総会に先だって5月28日、29日の両日の昼間にはシンポジウムが開かれました。28日の夜にはオープニングの乾杯が行われた後、海岸近くの野外の会場へ移動。オープニング・ショウのTol Theatre(ベルギー)の「PEDALEANDO HACIA EL CIELO(空に向かってペダルを踏む)」を観ました。建物に影を映したり、花火やラクーンでつり上げた役者が花びらを撒いたり、とにかく派手で美しく、フェスティバルの雰囲気を盛り上げます。

5月30日から6月3日まではウニマ総会。ウニマの活動や財務状況の報告と承認、各国ウニマの活動報告、執行委員や役員の選出などの人事、各種委員会の報告と見直し、次回総会の開催国などが話し合われ、次回2020年の総会はインドネシアのバリに決定しました。

世界人形劇フェスティバルは、劇場上演が子ども向け6、大人向け5、路上パフォーマンスなどが24、その他もあるようでした。の中では、古代ローマのコロッセオを模した円形のテント会場で猛獣狩りや剣闘士の試合を見せたLa Licorne(フランス)の「SPARTACUS」、何台ものカメラと映像を切り替えながらミニチュアの紙人形を動かして大航海劇を一人で上演したLafontana - Formas Animadas(ポルトガル)の「PEREGRINAÇÃO(巡礼)」、ファンタジックに男の子の成



# REPORT

## Domestic

## 国内人形劇フェスティバル

- 第29回池袋いけいけ人形劇まつり
- 千葉県人形劇まつりin木更津



長を描いたUnterwasser(イタリア)の「OUT」、簡単な人形と素朴な演出で徹底的に子どもたちを楽しませたTitiriteros de Binéfar(スペイン)の「EN LA BOCA DEL LOBO(オオカミの口)」、まるで移動遊園地のようにアイデアが詰まったWild Theatre(オーストリア)の「Fishing for Shadows」などが印象に残りました。

日本からは、劇団かかし座がバージョンアップを続ける「ANIMARE」を上演。かかし座を海外で観るのは6年ぶりですが、手慣れた風で安心させられます。そしてもうひとつは、ウニマ評議員で愛知人形劇センター会員の千田靖子プロデュースによる「九代目玉屋庄兵衛と名古屋からくり」。プログラムではSHOBEI TAMAYA IX & KARAKURI NINGYO COMPANY "WONDER OF KARAKURI NINGYO"となっています。「茶運人形」に始まって全国に2例しかない「文字書きからくり」「からす天狗乱杭渡り」まで説明も交えて50分間のパフォーマンス。珍しそうに見る観客の顔が印象的で、終了後は「あれはどうなっているんだ」と人大きに。フェスティバル期間中4会場8回の上演で「KARAKURI」の名を知らしめました。

愛知人形劇センター副理事長・広報部長  
たかはしいちげん(人形劇団わたぐも)



# REPORT

Aichi  
Puppetry  
Center

# あっぷ

ひまわりホールから  
発信する  
シアター情報誌

演劇人が!  
舞踊家が!!

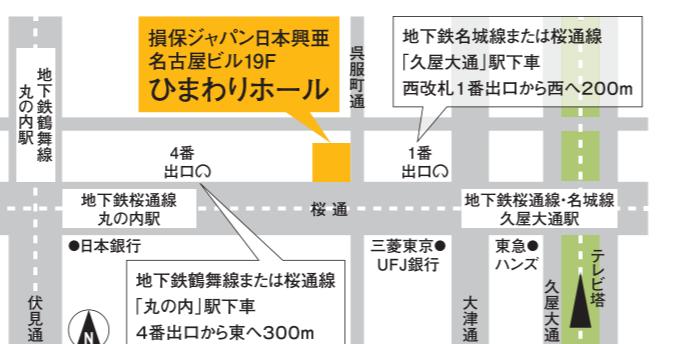
人形劇初挑戦  
&  
大競演

特定非営利活動法人  
**愛知人形劇センター**

〒460-8551 名古屋市中区丸の内3-22-21  
損保ジャパン日本興亜名古屋ビル8F  
TEL 052-212-7229 FAX 052-212-7309  
<http://aichi-puppet.net/> MAIL:[mail@aichi-puppet.net](mailto:mail@aichi-puppet.net)

愛知人形劇センター  
ひまわりホール情報誌  
**あっぷ**

「作家とくる短編人形劇2016」写真上から「にんぎょうひめ」(作:舟橋"委员長"慶子、演出:川村ミチル)、  
「Puppet Pupez(バベット・バベツ)」(振付・演出:堀江善弘)、「モノ・ガタリ」(作・演出:刈馬カオス)



特定非営利活動法人  
**愛知人形劇センター**  
ひまわりホール情報誌  
**あっぷ**  
発行:特定非営利活動法人 愛知人形劇センター  
発行人:木村繁  
編集人:たかはしいちげん  
デザイン:江利山浩二(KINGS ROAD)  
編集:小島祐未子(家鶴の巣集舎)

©愛知人形劇センター ※本誌記事・写真・レイアウトの転載を禁じます。